

【講演要旨】 安政江戸地震(1855)による寺院倒壊被害分布

東京大学地震研究所 都司 嘉宣

Distribution of Damaged Temples due to the Ansei Edo Earthquake of November 11th, 1855

Yoshinobu TSUJI

Earthquake Research Institute, University of Tokyo, 1-1-1, Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0032 Japan

§1. はじめに

武者(1951)の『日本地震史料』に紹介されている『破窓の記』(城東山人著, p495-508)、『なみの日並』(笠亭仙果著, p528-544)、『安政乙卯武江地動之記』(斎藤月岑著, p566-599)、『時雨廻袖』(畑銀鷄著, p566-p613)、『安政見聞誌』(p613-625)、『むし倉後記続編』(p651-656)などは、いずれも安政江戸地震(1855)の当日、江戸に在住していた筆者たちによる江戸市中の詳細な記録であるが、この中には、寺院神社の倒壊記事が数多く記載されている。このほか、地震研究所(1985)の『新収・日本地震史料・別巻2-1』に紹介された『下谷区誌』(p1324-1325)、『葛飾区寺院調査報告・上下』(p1331-1332)、『桑川町宇田川高太郎文書』(1333-1335)、『善養寺文書』(p1346-1350)等の文献も、江戸市中および近郊に分布する寺院の被災の状況を知ることができる。

以上、既刊の史料集の文献に加えて、筆者は、東京都立図書館で『江戸川区史』(1980)、『城東区誌』(1942)などから、さらに埼玉県立図書館、群馬県立図書館、千葉県立図書館などに各所蔵の文献から、安政江戸地震による江戸を始めとする関東全域の寺院被災記録を収集した。このようにして作成した安政江戸寺院による寺院被害記録の総数は 570 件に達した。

§2. 寺院建築物の被災程度の階級区分

安政江戸地震によって被災した寺院を被災程度によって、次の7つの区分に分類した。すなわち、(A) 本堂が皆潰、(B) 付属堂や庫裏等、付属建物の中に皆潰があったもの、(C) 建物が半潰、大破したもの、鐘楼、門が倒壊したもの、(D) 建物が破損したもの、(E) 建物小破、碑墓石が多く倒れたもの、(F) 墓石の少数が倒れたもの、(G) 焼失したもの、の七区分である。これらの被害分類と現行の気象庁震度は、およそ、(A)は震度6強から7に、(B)は6弱に、(C)は5強に、(D)は5弱、或いは5強に、(E)は5弱に、(F)は震度4~5弱におよそ対応していると考えられる。寺院が無事であると積極的に記録されている場合には、(Z)と分類した。結果を図1、図2に示す。浅草・上野間、深川で被害が重い。また不忍池、駒込に被害集中がある。古利根川流域で、被害多い。

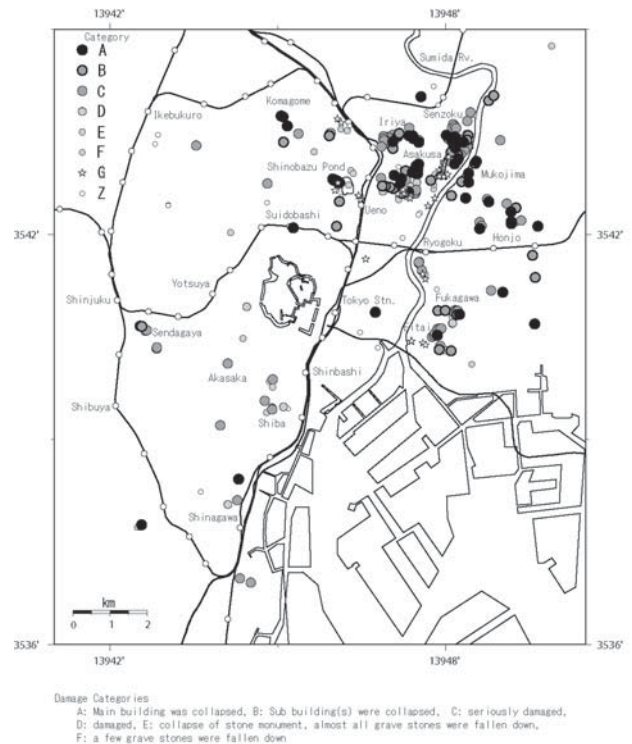


図1. 江戸市中の寺院被害分布

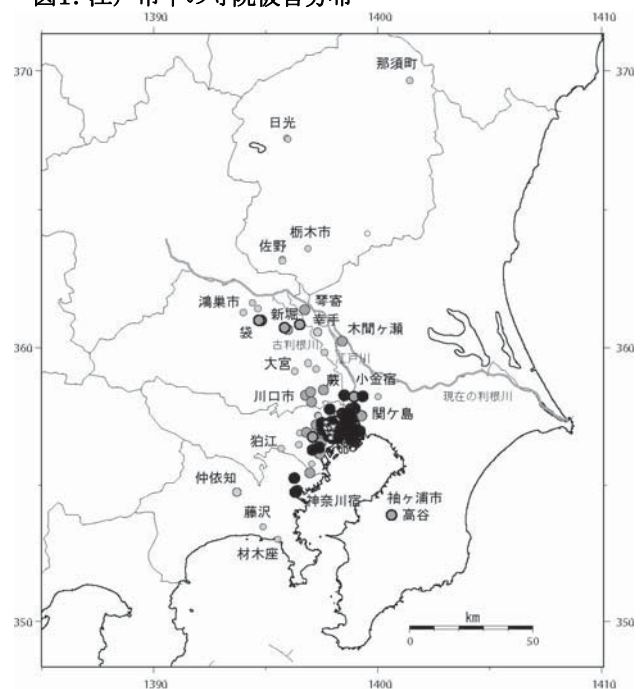


図2 安政江戸地震による関東平野の寺院被害分布
記号の意味は図1と同じ